

人口ビジョン

中長期展望(2060年を視野)

I 人口の現状分析

- ◎ 2013(平成25)年度以降、自然動態、社会動態ともに減少
◎ 合計特殊出生率は、全国平均を上回ってきたが、2013(平成25)年に1.42となり、全国平均を下回る
◎ 若い世代の九州圏や大都市圏への転出が顕著
◎ 中長期的には人口減少は避けられず、このまま推移すれば、老年人口すらも減少する本格的な人口減少時代へ

II 人口の将来展望

- ◎ 人口の現状分析や市民意識等調査の結果、本市の特性も踏まえ、目指すべき将来の方向と、人口の将来を展望

1. 目指すべき将来の方向

目指す姿 人・まち・みどり みんなで創る “豊かさ” 実感都市・かごしま

【基本的視点】

- ① 若い世代を中心とする人口流出の抑制
② 若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
③ 本市の魅力を生かした交流人口の拡大
④ 生涯にわたって生き生きと暮らせるまちづくりの推進

2. 将来展望

- ◎ 2010(平成22)年:約60万人
2060(令和42)年:51.5万人程度
◎人口構造の若返り

【参考】

- ◎社人研推計ベースでは、2060年は41.7万人

総合戦略(2015(平成27)~2021(令和3)年度の7か年)

基本目標

1. しごとで活力を「つくる」

- ◎ 魅力的で安定した雇用の場の確保
◎ 潜在的な労働力の雇用機会の拡大
■ 事業所数 7年間で約1,800事業所の増(30,100事業所)
■ 従業者数 7年間で約5,100人の増(283,500人)

2. 結婚・出産・子育ての希望を「かなえる」

- ◎ 安心して結婚・出産・子育てができる環境整備
■ 出生数 7年間で37,000人

3. まちの魅力を「みかく」

- ◎ 域外の消費需要を呼び込む交流人口の拡大
■ 宿泊観光客数 7年間で44万人の増(380万人)

4. ひと・まちを多彩に「つなぐ」

- ◎ 持続性と発展性を備えたまちの継承
■ 国内外の交流都市数 7年間で5都市以上の増(26都市以上)

主な施策と重要業績評価指標(KPI)

重点戦略

重点的かつ先駆的な取組

(1) 世界基準の観光地域づくり

- ◆ 世界に誇りうる地域資源の活用
外国人観光客の誘致・受入体制の整備
【KPI】 ○外国人宿泊観光客数 12万人 ⇒ 30万人

(2) 健“高”医“良”都市の創造

- ◆ 健康と生きがいを実感できる市民生活の提供(生涯活躍のまち構想・基本計画の策定・推進など)
【KPI】 ○新たなヘルスケアビジネスの展開に取り組む事業者数 7年間で67事業者
○介護保険サービスの総給付費に占める在宅サービス費の割合 51.7% ⇒ 56.0%

(3) 大学との連携強化とふるさと教育の推進

- ◆ 大学との連携強化
ふるさと教育の推進
【KPI】 ○市内大学生の県内就職率 7年間で8%増
○市内6大学との新規連携事業・取組数 5年間で51件
○郷土教育に係る体験活動の実施率 90.6% ⇒ 100%

(4) 連携中枢都市圏の形成

- ◆ かごしま連携中枢都市圏ビジョンの推進(圏域全体の経済成長のけん引など)
【KPI】 ○連携事業数 7年間で27事業

積極戦略

人口減少に歯止めをかける取組

- (1) 地域産業の競争力強化(業種横断的取組)
◆ 新事業・新産業創出の支援、経営改善の支援、人材の確保
【KPI】 新たなビジネス展開に取り組む事業者数 8事業者 ⇒ 127事業者(7年間)
(2) 地域産業の競争力強化(分野別取組)
◆ 商業・サービス業・ものづくり産業・農林水産業の活性化
【KPI】 本市の事業活用による商談成約件数 11件 ⇒ 357件(7年間)
(3) 若い世代をはじめとする雇用機会の拡大
◆ 創業、第二創業への支援、企業立地の推進、若者・女性・高齢者等の活躍促進
【KPI】 企業立地件数 49件(7年間)

- (1) 若い世代の経済的安定
◆ 若者の就業支援、貧困の世代間連鎖の解消
【KPI】 トライアル雇用支援金を活用して雇用される若年者等の人数 134人 ⇒ 888人(7年間)
(2) 結婚の希望の実現
◆ 次世代を担う若者への意識啓発、結婚への支援
【KPI】 婚活事業への参加者の満足度 90%
(3) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援
【KPI】 妊娠出産について満足している者の割合 84.1% ⇒ 85%
(4) 子育て支援の充実
◆ 子育て支援施設の整備・充実、放課後における児童の健全育成、子育て世帯への経済的支援
【KPI】 保育所等・児童クラブの待機児童数 0人
(5) ワーク・ライフ・バランスの普及促進
【KPI】 ワーク・ライフ・バランスをテーマとした講座等の受講者数 472人 ⇒ 2,100人(7年間)

- (1) 鹿児島オリジナルの魅力向上
◆ 食の都づくり、歴史、自然等を生かした観光の振興、花と緑の回遊空間づくり、潤いのある都市景観の形成、“鹿児島ファン”の拡大
【KPI】 入込観光客数 950万人 ⇒ 1,050万人
(2) まちなかのにぎわい創出
◆ 集客力・回遊性の向上、新たな都市拠点の形成
【KPI】 中心市街地の歩行者通行量 16万人 ⇒ 17.1万人

適応戦略

人口減少社会に適応する取組

- (1) 人口減少等を見据えた持続可能なまちづくり
◆ 都市のコンパクト化と交通ネットワークの形成、ストックマネジメントの強化
【KPI】 公共施設配置適正化計画に基づく事業完了施設数 14施設
(2) 互いに支え合う温もりのある地域社会の形成
◆ 地域コミュニティの形成、協働によるまちづくり
【KPI】 コミュニティプランに基づき活動する協議会数 50団体 ⇒ 79団体
(3) 移住の促進
【KPI】 本市の関連施策を通じた移住者数 毎年度50人
(4) 都市間の交流・連携
◆ 国際交流の推進、国内の都市との多様な交流・連携
【KPI】 国際交流事業への参加者数 11,523人 ⇒ 13,200人